

2024 年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業

福島県只見町塩沢地区 実証活動事業報告書



日本工業大学 学生環境推進委員会

2025 年 2 月

目次

1. 団体の概要
2. 支援事業活動の目的
3. 集落概要
4. 活動スケジュール
5. 実証活動
6. 今年度の総括
7. 提案（実証活動から得られた次年度活動テーマの提案）

謝辞

1. 団体の概要

日本工業大学（埼玉県宮代町）の学生環境推進委員会は、3 学部（基幹工学部、先進工学部、建築学部）の各学科（機械工学・情報メディア・建築学など 7 学科）を専攻する学生で構成されています。

当委員会では、環境関連と地域連携の活動を中心に行っており、SDGs の社会課題解決に向けた幅広い活動も行っています。

環境関連活動では、エコプロ（東京ビッグサイトで行われる国内最大規模の環境展示会イベント）への参加、植物育成プロジェクト(学内での植栽、植物の保全)、町内各種イベント、リユース傘（本学の学生向けに傘を貸出する企画）、リサイクルショップ(本学の学生向けに古着や家具を無償で配布する活動)等を行っています。

地域連携活動では、宮代町民まつりや子ども大学などに企画段階から参加しています。特に近隣の小学校4～6年生を対象に行う子ども大学では、工業大学ならではの科学実験を交えた体験授業を行うことで、評価を頂いています。



植物育成プロジェクト



子ども大学

2. 支援事業活動の目的

2-1 背景

今回の対象となっている南会津郡只見町塩沢地区は、人口減少・高齢化に伴う生活利便性の維持が危ぶまれています。その影響により農耕や行事存続が難しくなっています。一方、集落の住民の方々からは、若い世代との交流・意見交換を行い、集落の活性化や維持を図っていききたいとの要望があります。

2-2 目的

昨年の現地調査から得た改善テーマを基に、より良い地域の活性化を模索していく手段を具体化していくことを目的として、上記の背景を念頭におきながら、集落活性化策に係

る実証活動を計画し、只見町塩沢地区の住民の方とのヒアリングを行い、現地の再調査を兼ねた訪問と話し合いを重ねました。

3. 集落概要

3-1 人口と面積

(1) 南会津郡只見町(2025年1月1日時点)

| | |
|-------|----------------------|
| 【人口】 | 3,537 人 |
| 【男】 | 1,753 人 |
| 【女】 | 1,784 人 |
| 【世帯数】 | 1,518 世帯 |
| 【面積】 | 747.6km ² |

【概要】只見町は四方を緑の山々に囲まれ、福島県の西南にあります。

清廉な川と、面積の94%を占める森林資源に恵まれ、豪雪地帯ならではの四季の美しい移り変わりが、只見町の魅力です。

【参考】只見町 「日本の自然の中心地 自然首都・只見」

<https://www.town.tadami.lg.jp/index2.html>

(2) 只見町 塩沢・十島地区(2020年10月1日時点)

| | |
|-------|-------------------------|
| 【人口】 | 50 人 |
| 【男】 | 28 人 |
| 【女】 | 22 人 |
| 【世帯数】 | 23 世帯 |
| 【面積】 | 2,270,500m ² |

【概要】塩沢・十島地区は、只見町の最北にあります。

ブナと川のミュージアムや河井継之助記念館等の観光スポットを構えており、豊かな自然、広大な農耕地が散見されます。一方、高齢化により労働者不足の問題が見受けられます。

【参考】国勢調査 令和2年国勢調査 小地域集計

<https://www.estat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136472&tclass2=000001159880&tclass3val=0>

3-2 農業

わらびやお米を生産しており、一部農業機械を導入していますが、金銭的な問題で導入が完全ではありません。集落内の農業生産を継続するため、若い労働者や後継者不足の改

善が早急に求められています。

3-3 就業

低賃金・労働環境の整備不足により労働者不足が発生しています。労働者不足の対策として、2024年度から開始されたワーキングホリデーや、U・Iターン支援情報、若者定住支援事業補助金等があります。

3-4 行事

野焼きやわらびの採取体験などの行事が豊富にあります。一方で、行事を実行するための労働者が不足していることや、過疎化が進んだ影響もあり規模が縮小傾向にあります。

4. 活動スケジュール

今回の支援事業で実施した年間活動スケジュール(月別)を下表に示します。

| 活動時期 | 内容 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2024年 5月 | 【会議】(キャンパス内) ①現地の方とリモート打合せの日程 ②実態調査日程 ③実態調査の参加人員把握期限 ④実態調査の概要確認 |
| 6月 | 【第一回現地活動】6/15-16 ①塩沢集会所で住民の方々と意見交換 ②会津産業(山菜加工場)での意見交換 ③わらび園の見学 ④森林の分校ふざわで宇都宮大学との交流 ⑤塩沢集会所で住民の方々と意見交換 ⑥文化遺産旧五十嵐家住宅、旧長谷部家住宅見学 ⑦空き家見学 【会議】(キャンパス内) ①実証活動の報告 ②報告書作成に向けての分担 |
| 7月 | 【会議】(キャンパス内) ①大学生事業アンケートの作成 ②大学内での活動の発表 |

| | |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ③ 空き家改修についての方針の決定 ④ 9月実証活動に向けてのスケジュール検討 |
| 8月 | <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各班の進捗報告と、意見交換 |
| 9月 | <p>【第二回現地活動】9/19-20</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 空き家訪問 ② SNS 講座 ③ 観光スポット調査 ④ 意見交換会 <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各班の進捗報告と、意見交換 ② 実証活動のスケジュール決定 |
| 10月 | <p>【学内イベント】10/26</p> <p>大学内のホームカミングデーでの特産品の販売</p> <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 冬の実証活動に向けての活動内容の決定 |
| 11月 | <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 冬の実証活動に向けてのスケジュール検討 |
| 12月 | <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 報告会メンバー確定 |
| 2025年 1月 | <p>【会議】(キャンパス内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 冬の活動内容・スケジュールの再検討 |
| 2月 | <p>【報告会準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 杉妻会館での福島復興事業報告会への参加 2/8 <p>【第三回現地活動(オンライン会議)】2/27</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 関係者に向けた今年度の活動報告 ② 次年度活動に向けての相談 <p>【最終成果品提出】2/28</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 報告書の提出 |

5. 実証活動

5-1 現地訪問による実証活動日程と内容

(1) 第一回現地活動

1日目 (6月15日)

| 時刻 | 行程 | 活動内容 |
|-------|--------------|--------------------------------|
| 8:00 | 埼玉発 | 移動、昼食 |
| 12:50 | 只見町着、顔合わせ | 集落の方への挨拶 |
| 13:00 | 会津産業見学 | 塩沢地区の特産品（山菜加工品）を知る 加工工程の手伝い |
| 14:00 | わらび園の見学 | わらび園の現状把握 |
| 15:00 | 空き家視察 | 地区で案内された空き家の確認（主に外面） |
| 15:30 | ワークショップ（公民館） | 地元の方との意見交換会を行い現状と課題を知る |
| 17:30 | 宿到着 | 森林の分校ふざわでの宇都宮大学との交流 |

2日目 (6月16日)

| 時刻 | 行程 | 備考 |
|-------|---------|---------------------------------|
| 7:30 | 宿出発 | 移動、昼食 |
| 9:00 | 班ごとに視察 | ワークショップ（公民館）、旧五十嵐家住宅と旧長谷部家住宅の見学 |
| 11:30 | 解散、只見町発 | |

(2) 第二回現地活動

1日目(9月19日)

| 時刻 | 行程 | 備考 |
|-------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 8:00 | 埼玉発 | 移動、昼食 |
| 12:50 | 只見町着、顔合わせ | 集落の方への挨拶 |
| 13:00 | 各班活動 | 空き家活用班：空き家計測、間取り図の作成 観光促進班：三石神社、奥会津ただみの森キャンプ場の視察 SNS活用班：SNS講座実施、会津産業で特産品仕入れの相談 |
| 17:30 | 宿到着 | |

2日目(9月20日)

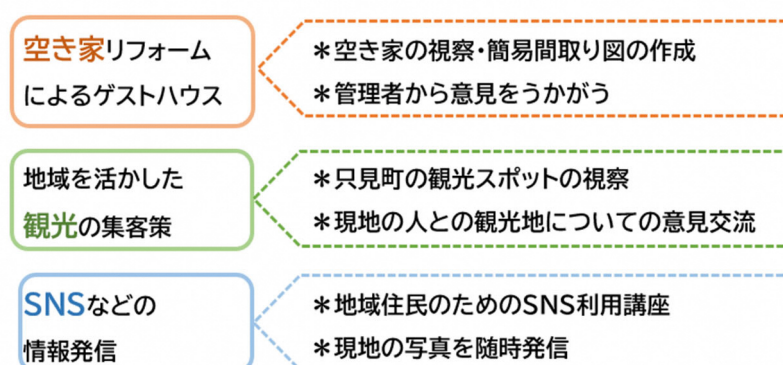
| 時刻 | 行程 | 備考 |
|-------|--------------|----------------------------------------------------|
| 7:30 | 宿出発 | 移動、昼食 |
| 9:00 | ワークショップ(公民館) | 空き家活用班：空き家改修提案 観光促進班：観光マップの提案 SNS活用班：SNS講座実施 |
| 11:40 | 解散、只見町発 | |

5-2 只見町塩沢地区の三つの取り組み

私たちは、昨年度から現地調査を重ね住民の方々と意見交換を行うことにより、課題を抽出した中から、二年目となる実証事業で取り組むべき三つのテーマに絞り改善に向けて活動しました。

三つのテーマは以下の通りです。

課題解決 3つの取り組み



5-3 各班の活動成果

5-3-1 空き家活用班

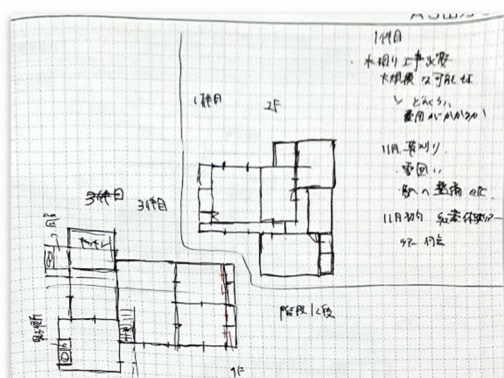
(1) 今年度の目的

空き家リフォームによるゲストハウス化により、空き家の再利用をはかる。

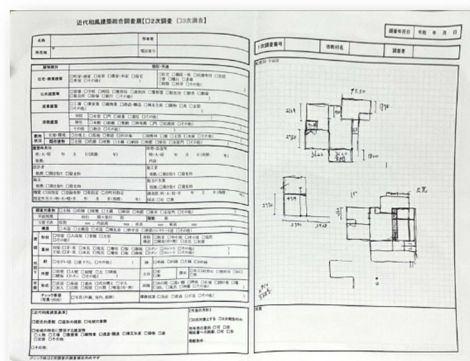
(2) 今年度の活動内容

実際に空き家を訪問し、360°カメラを用いて間取り図を作成しました。管理者の方に空き家の情報をうかがい、ゲストハウス化についての意見を頂きました。地元の方々との話し合いの結果、空き家の老朽化や水回りの損傷が激しく、少ない費用でのリフォームは難しいと判断しました。

そのため空き家を活用する前に、当委員会メンバー自らが地元の生活を身近に感じるための体験ツアーから試みることを考えました。



間取り図



調査表



空き家で図面作成



老朽化した空き家

5-3-2 観光促進班

(1) 今年度の目的

地域の特色活かした観光の集客策を作成する。

(2) 今年度の活動内容

観光地を広報するために、三石神社やわらび園、旧五十嵐家などの、映え・観光スポットの視察を行い、現地の人との意見交換を行うことで観光にまつわる詳しい情報を収集しました。

只見町塩沢地区の観光名所を調査し、独自の観光マップを試作しました。



只見町塩沢観光マップ試作



三石神社調査



わらび園調査



旧五十嵐住宅

5-3-3 SNS 活用班

(1) 今年度の目的

南会津郡只見町塩沢地区は、豊かな自然や伝統文化を持つ一方、人口減少や高齢化により観光資源の発信が十分に行われていません。特に SNS の活用が進んでおらず、地域の魅力を広く伝える機会が限られています。

そこで SNS 活用班では、若い世代のデジタルスキルを活かし、地域の観光資源や文化を効果的に発信する方法を検討しました。住民との意見交換を通じてニーズを把握し、魅力的なコンテンツを制作・発信することで、地域活性化や訪問者の増加につなげることを目指しました。

(2) 今年度の活動内容

只見町の豊かな観光資源をより多くの人に伝えるため、SNS 活用班では観光促進班や空き家活用班の活動をバックアップしていきたいと考えています。

そのためにアンケート実施、SNS 講座、TikTok を用いた広報活動を行いました。

① アンケート実施

現地の方々に事業への感想を伺い、地域の魅力発信に役立てるためのアンケートを実施しました。また、SNS を活用した情報発信を強化するために、住民の方々がどの程度 SNS を利用できるのかを把握する事前アンケートも行いました。これらの調査をもとに、地域の皆様と協力しながら、より効果的な広報活動の検討をしました。

大学生事業アンケート調査 塩沢・十島地区

回答日 年 月 日

Q1.年齢

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代
 80代 90代

Q2.性別

女性 男性 無回答

Q3.塩沢・十島地区に住むきっかけはなんですか？

出身地 移住
 住んでいて魅力を感じる点を教えてください！(自由記述)

Q4.普段使っている連絡機器を教えてください。

スマホ PC 固定電話のみ

Q5.以下のSNSで使ったことがあるものはありますか？

Facebook X Instagram YouTube
 LINE TikTok 知ってはいるが使わない 知らない

Q6.SNSの主な用途を教えてください。

情報収集 情報発信 仲間内のみの情報共有
 その他

Q7.SNSレクチャーを開催した場合に参加したいと思いませんか？

そう思う どちらでもよい そう思わない

Q8.大学生の復興支援事業に興味をもちますか？

事業例
 ・地域の特産物の出張販売 ・わらびの採取体験 ・空き家を用いた観光者受け入れ

とても興味がある 少し興味がある そこまで興味がない 興味がない

Q9.大学生事業のイベントに参加していただけますか？

イベント毎に参加したい ほとんどに参加したい
 数回のみ参加したい 難しい

Q10. Q9で難しいと回答した方へ
 よろしければ理由を教えてください。(自由記述)

Q11.その他開催したいイベント内容があればご記入ください。
 (自由記述)

Q12. 大学生事業にアドバイスがあればご記入ください！(自由記述)

質問は以上です、お疲れ様でした！
 また、いつもご協力いただきありがとうございます！

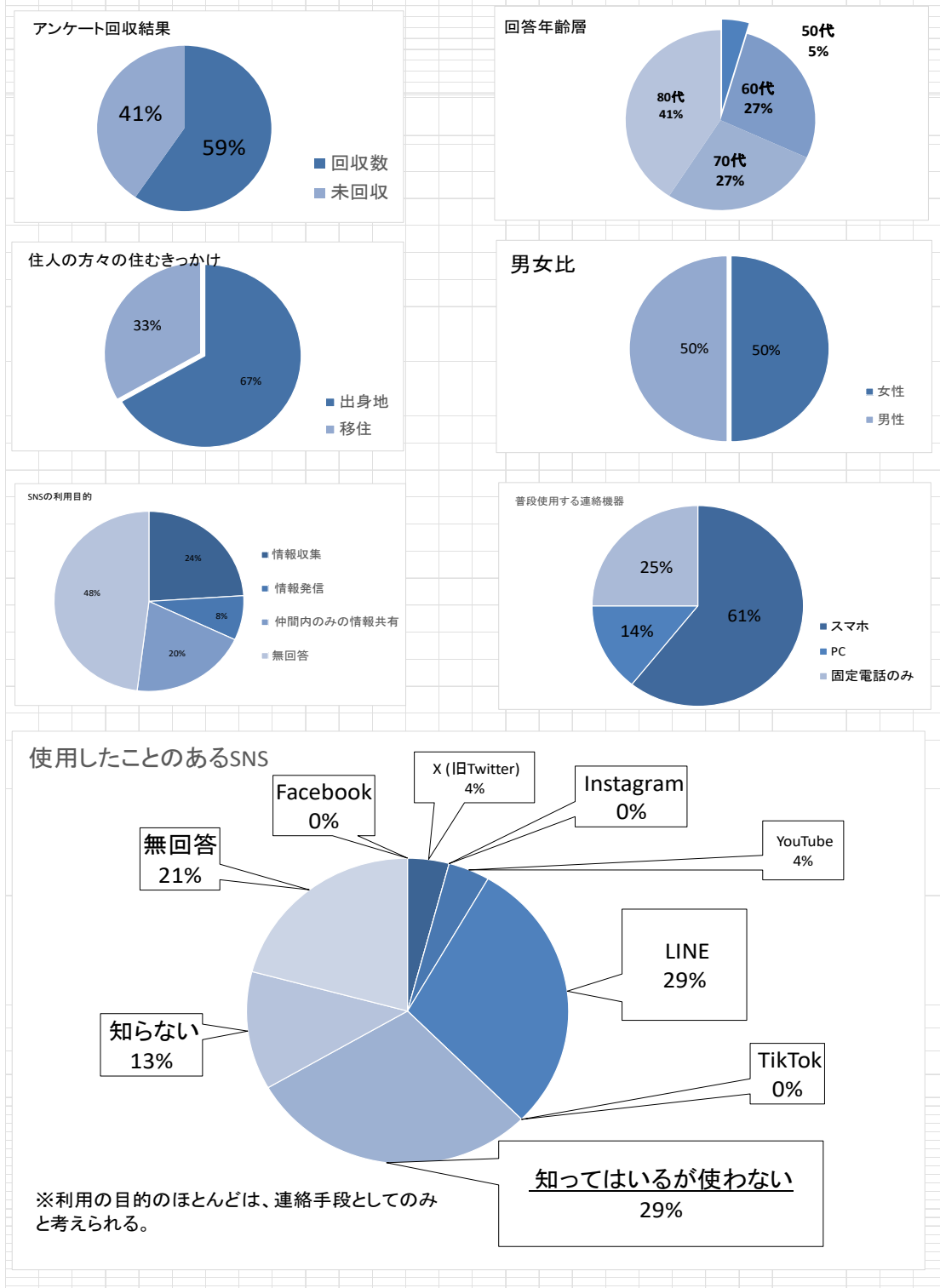
日本工業大学
 学生環境推進委員会

アンケート：表

アンケート：裏

| 塩沢・十島地区の皆様にお答えいただいたアンケートについて | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-----|-------------|------------------------------------------|---------------------|--------------------------|------------------------|---------------------------|----------------------|-------|-----|---------|
| 質問番号 | 選択数 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 | 無回答 |
| Q1.年齢 | | | | | | 1 | 6 | 6 | 9 | | 0 |
| Q2.性別 | | 女性 | 男性 | 無回答 | | | | | | | 無回答 |
| Q3.塩沢・十島地区に住むきっかけ | | 出身地 | 移住 | 無回答 | | | | | | | 無回答 |
| Q4.普段使っている連絡機器 | | スマホ | PC | 固定電話のみ | 重複回答者 | | | | | | 無回答 |
| Q5.使ったことがあるSNS | | Facebook | X (旧Twitter) | Instagram | YouTube | LINE | TikTok | 知ってはいるが使わない | 知らない | | 無回答 |
| Q6.SNSの主な用途 | | 情報収集 | 情報発信 | 仲間内のみの情報共有 | | | | | | | 無回答 |
| Q7.SNSレクチャー参加回数 | | そう思う | どちらでもよい | そう思わない | | | | | | | 無回答 |
| Q8.大学生の復興支援事業への興味 | | とても興味がある | 少し興味がある | そこまで興味がない | 興味がない | | | | | | 無回答 |
| Q9.大学生事業イベント参加回数 | | イベント毎に参加したい | 数回のみ参加したい | ほとんどに参加したい | 難しい | | | | | | 無回答 |
| Q10.イベントに「難しい」と回答した理由 | | 自由記述 | 忙しい | 通院のため | | | | 県、町、村、大学との関係がよく見えない。 | 高齢のため | | |
| Q11.開催したいイベント(自由記述) | | 自由記述 | 地域内の刈払い体験、わらびの野焼き体験などの作業体験 | 町の文化祭等の行事で行う物産販売 | 学生と熱い合えるイベント等(集落内での祭りなど) | 山村の過疎化が進むため活性化のためのイベント | 地域の発展になるもの | | | | |
| Q12.大学生事業へのアドバイス(自由記述) | | 自由記述 | 地域内から考えた場合、限界があるが外から地域を見た場合新たな発見があると気づく。 | 地域内での手伝い(草刈、地域内の清掃) | 目的と手段が見えない | 各地の少子化問題解決 | 中山間地の状況を調査して、地域振興を手伝ってほしい | | | | |
| | | | | | | | | | | | 送付総数 37 |
| | | | | | | | | | | | 回収数 23 |
| | | | | | | | | | | | 未回収 14 |
| | | | | | | | | | | | 回収率 59% |

アンケート結果①



アンケート結果②

② SNS 講座

昨年から Instagram や X を活用した広報活動を行っていましたが、現地の方々への周知が十分ではありませんでした。さらに、TikTok を活用した動画作成を進めるにあたり、地域の写真提供が必要となるため、住民の方の協力が欠かせませんでした。

そこで、SNS 班では X や TikTok の活用方法を伝える講座を開催し、住民の方々に SNS の仕組みを理解してもらうとともに、地域の魅力を発信する取り組みへの協力を呼びかけました。



SNS 班の活動目的を伝える



TikTok の使い方講座

③ TikTok を用いた広報活動

現地調査の際に撮影した写真や動画を組み合わせ、地域の風景や文化、特色が伝わるようなコンテンツを制作しました。これにより、視覚的に魅力を伝えつつ、多くの人に関心を持ってもらえるような SNS 発信を目指しています。

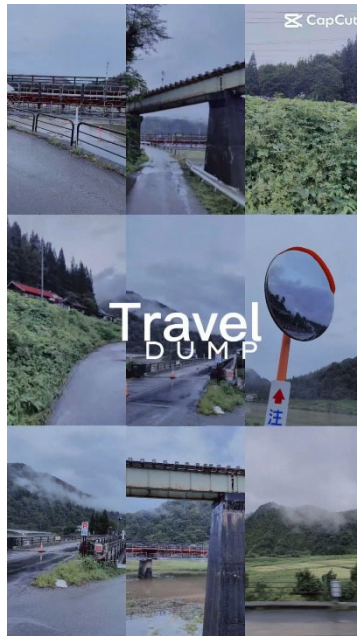
Instagram



X



TikTok でも発信



TikTok（15秒ほどで写真・動画をつないで動画を作成）

④学内イベント会場での山菜加工品販売

全国の本学OB・OGが集まるホームカミングデーで、塩沢地区の山菜加工品であるわらびの醤油漬けや、いちじくのジャムなど10品を販売し大好評をいただきました。また、このイベントは復興支援事業の一つとしてSNSで公開しました



缶詰工場でお手伝い



物販・試食コーナー



ホームカミングデー会場

5-4 実態調査を終えての気づき

今回プロジェクトに参加した学生から以下のような気づきがありました。

【空き家活用】

・空き家の見学は塩沢地区の冬季の天候と現地の方々の都合もあり状況によって不可能な場合が多く、難しいと思った。

・積雪が多い場合冬のツアー等はできないことが分かった。ツアーの時期は夏から秋が適切と考えられた。

・空き家に繋がるツアーを行うと良いという意見が出たが、それだけでは人が集まらない感じがしたので、現地の自然や古い家(古民家や民宿など)を組み込んで、只見町の良さを伝えながら空き家に繋がるツアーを行うといいと感じた。

・ツアーを行う上で料理を自分たちで作って振る舞うことはできないが、調理師資格を持っている方の指導の下で一緒に作るならいけるかもしれない。

・3件の空き家を調査して、空き家をリノベーションすることは想像以上に難しく、お金の面や持ち主からの許可を得るのは簡単には行かないことを自覚した。中には状態の良いものもあったが、既にある仏壇をどうするのか、そもそも無償で提供いただけるのか、考えなければならない問題が空き家を見たことで多く発生した。

・見せて頂いた空き家の中には、もしリノベーションを続けるのであれば、空き家の持ち主(親族)との深い話し合いが必要であると感じた。

・空き家改修は難易度も高いため、時間をかけて行っていくことが必要だと感じた。空き家の老朽化や水回りの損傷が激しく、少ない費用でのリフォームは難しいとわかった。

【観光促進】

・塩沢・十島地区に限定した観光マップにすると、記載するものが減ってしまう。

・四季折々の季節を感じられる。

・実際に只見町に訪れ、知らないだけでまだまだ良いところがたくさんあるなど感じた。どう広報していくかが課題だと思う。

・既に広報されているものでも、別のアプローチの仕方を探すのも良いと思う。

・実際に訪れ見て・聞いて・触れることが一番確かな情報が得られるなど気付いた。

・只見町内の塩沢町以外の場所にダムや地酒の専門店など観光に適するスポットがあった。

・広報の仕方として、現地の人柄の良さを売りにするのも良いかもと思った

・住民の方でも、いつも見ている景色だからこれがすごいことなのか分からない、という意見が多く、実際に自分たちで見つけられるように考えながら観光地をめぐる必要性があると感じた。学生と地域とのかかわりをもっと推して行ってもいいと思う。

・スマホを使う人が少ないため、フォトコンテストを募集しても写真を現地の方は撮らない。

・フォトコンテストに適する場所は様々あるが現地で写真を撮るには車が必須だと分かった。

・地酒を作るための工場や販売など地域に寄り添った働き口があった。

【SNS 活用】

- ・ SNS の使い方については、教室形式に講座を開くと喜んでもらえる。
- ・ 今回 X、Instagram、TikTok を SNS ツールとして挙げたが、特に TikTok に関しては動画コンテンツの中で扱いやすいことが分かった。学生側でも使う機会がない人もいることが分かったので、まずは学生の中で学ぶことも必要かと思った。
- ・ 特に SNS を使い慣れていない現地の方に、今回の活動についての投稿を見つけてもらうためには、定期的な投稿が必須だなと感じた。
- ・ 観光する場所の見せ方があるというのが、TikTok の動画を作成してみたうえで分かったので、そのマーケティング方法の部分に関しても学ぶと効果的に進められると思った。
- ・ 定期的な投稿に関しては、簡単なものでないと難しいと感じた。
- ・ 投稿をするということに関しては、だれが作成してもいいことにした方が、投稿率が上がると思った。(SNS 班としては、TikTok の動画の作成方針とかを定めるような担当をする。)
- ・ スマホを扱える現地住民の方は SNS 運用に積極的であった。
- ・ 若い世代が余りいないため講座を開くことで SNS について知ってもらうことが大事。
- ・ 投稿をしていくには沢山の動画が必要になる。

【地元自治体からの助言】

- ・ 若者と世代ギャップがある住民との話し合いの中から有意義な発想が生まれ、とても充実した交流になった。
- ・ 事業取り組み期間が短い状況の中、地区住民の方々と時間をかけて信頼感を醸成し取り組んでほしい。

6. 今年度の総括

今回の実証活動においては、空き家活用、観光促進、SNS 活用の三つのテーマを決めて活動した結果、確かな成果と新たな気づきを得ました。

空き家活用のテーマにおいては、空き家の現状を調査した結果、短期にしか現地に行けない学生のレベルでは空き家をリフォーム改修することが難しい事を認識しました。しかし検討の過程で、地域の方と議論した結果色々なアイデアを得られ、現地滞在を楽しむ有効な手段としてツアー活動を現実的なものにしていける可能性があることが分かりました。

観光促進のテーマにおいては、集客を狙いとして観光マップの作成を行いました。塩沢地区にある観光スポットの選定が限られることや只見町の既存のマップとの差別化の難しさがあることがわかりました。地区を訪れる人が少ない現状では、まず地域の魅力を発信することが有効と考えられます。その手段としてフォトコンテスト等があげられます。

SNS 活用のテーマにおいては、期待通りの成果をあげることができ、地元の方々にも SNS の運用を受け入れて頂きました。SNS 利用拡大の支援を続けていきます。

その他においては、本学の OB・OG イベント（ホームカミングデー）において、地元特産の山菜加工品の販売を行い、大好評を得ました。学内関係者に限られるものの、全国の OB・OG に本事業を知って貰うと同時に支援を頂くことができました。

7. 提案（実証活動から得られた次年度活動テーマの提案）

今年度の実証活動を踏まえて以下の通り、次年度に向けて活動の提案をします。

【空き家活用】

（1）来年度の目的

大学生を対象とした体験ツアーを提案し実施します。

（2）来年度の活動予定内容

只見の魅力伝え、地元の生活体験を楽しめるツアーを学生自ら試行し、大学内などで広報活動を行い参加者を募り、魅力を伝えていきます。SNS 班観光班と共同で学生目線の只見魅力発信ガイドブックを作りツアーで配布します。

【観光促進】

（1）来年度の目的

地域の魅力を伝えるための町を巻き込んだフォトコンテストを開催し広報します。

（2）来年度の活動予定内容

フォトコンテストを開催するにあたって、日程、賞品、広報の方法を明確化し、実施することで関係人口を増やします。

【SNS 活用】

（1）来年度の目的

定期的な動画投稿で、TikTok の視聴者の目に触れる機会を増やします。

（2）来年度の活動予定内容

観光促進班のフォトコンテストや、空き家活用班のツアーの広報活動を強化していきます。SNS 運営の仕方について、著名なアカウントを参考に試行錯誤していきます。多くのフォロワー（登録者）を持つ企業や、観光地の公式アカウントを参考にしていきます。

【地元との共有】（2/27 のリモート会議にて）

次年度にむけた課題の抽出と地元住民の方々との共有を行いました。

出席者：塩沢地区住民、只見町役場交流推進課、福島県企画調整部地域振興課

共有事項：

- ① 地元住民より観光促進のためのフォトコンテストについて、以前実施した只見町

でのフォトコンテストでの成果と課題を踏まえた上で、学生のアイデアを十分に取り入れ、SNS をフル活用して実施したい。

- ② LINE グループを活用し、地元の写真を PR できる活動を継続したい。
- ③ 高齢化に伴う空き家のリノベーションは希望するところであり学生の発想を期待したい。
- ④ 三つの活動テーマを整理した上で、連携を図り活動を進めて欲しい。

以上を考慮し、地域の活性化に向け住民の方々との更なる交流を深め、次年度の活動に繋げていきたい。

謝辞

今回、私たちの活動にあたり、終始ご協力を頂いた塩沢地区区長の五十嵐潤之介様をはじめとする住民の皆様、只見町 交流推進課 副課長 齋藤充様、主査 三瓶大樹様、移住コーディネーター 藤沼祐紀様に深謝いたします。

今回の調査・交流を通して得た知見を活かし、今後も事業を進めていく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。